

国際連携部会 ～国際的プレステージの向上を目指して～

居 田 克 巳

2010年に核融合科学研究所の「連携研究プロジェクト」という組織の中に「国際連携部会」を立ちあげました。「国際連携部会」は研究所及び日本の研究者の国際的プレステージの向上を目指しています。具体的な活動内容としては、1)国際会議における招待講演・口頭発表獲得のプロモーション、2)核融合科学研究所主催の国際会議のサポート、3)新たな国際会議の主導、4)ITERへの戦略的寄与があげられます。

これらの活動の中で特に力を入れているのが、国際会議における招待講演の獲得です。一般に国際会議では、招待講演・口頭発表・ポスター発表の3種類があります。このうち、口頭発表・ポスター発表は、会議主催者が作ったホームページを見て参加する側が応募します。口頭発表は数に制限があるので、主催者側は其中で関心の高いものを口頭発表に選びます。一方、特に注目されている研究に関しては主催者側が委員会を開いて、事前に講演を依頼します。これが招待講演です。従って、招待講演を依頼されることは、その研究が世界的に高く評価されていることを意味しますので、研究者、研究所、さらに日本の研究グループにとって名誉なことです。研究の進展が急速になった昨今においては、ただ、招待講演が依頼されるのを待つだけでは不十分で、本研究所、日本の研究の成果を売り込むことも重要となっています。

招待講演・口頭発表の場所は図1に示されるような大きな会場です。会議の規模にもよりますが、100人以上の聴衆を前に日頃の研究成果を30-60分かけて講演し、その後は活発な議論が行われます。発表はプロジェクターを用いて実験データ等を示し、英語で行います。

図2に本研究所の研究者が大型ヘリカル装置の実験結果について講演している様子を示します。



図1 招待講演・口頭発表会場(第24回IAEA主催核融合エネルギー国際会議)



図2 本研究所の研究者による講演風景(第17回MHD安定性制御・米国-日本MHDワークショップ)

一方ポスター発表は、各人が研究成果を図3で示されるようにボードに貼ってその前に立ちます。そこへ他の研究者が訪れて、まさに顔をつき合わせての議論が行われます。興味深い研究成果には多くの人が集まり、人だかりができて通れないこともあります。発表時間は2時間程度です。口頭発表に比べて多くの人に聞いてもらうということはできませんが、より深い議論ができるという特徴があります。

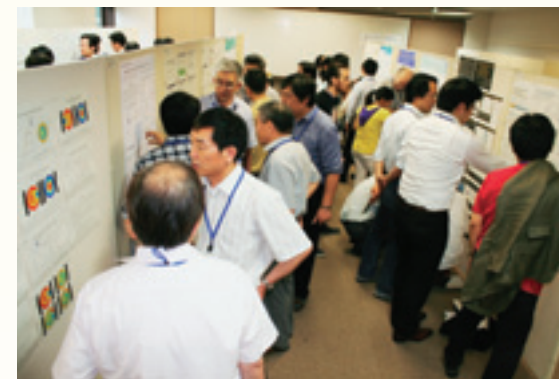


図3 ポスター会場の様子(第1回アジア太平洋輸送作業グループ会合)

あるトピックスに特化した国際会議は100人以下の小規模なものが多いのですが、このような会議では研究成果の妥当性や重要性等の学術的な議論に重点がおかれます。そういった議論の場に積極的に参加して、自分の意見を述べる事ができる若手研究者を育てることも、本部会の目的の一つになっています。またこのような会議では参加者はお互い顔見知りで、リラックスしたムードで会議が進められることが多く、一般に図4のような記念の集合写真が撮られます。こうした雰囲気は学術的な研究に関する意見交換を行うには重要なことで、冗談を交えた講演をする研究者も多くいます。

小規模な会議のもう一つの特徴は、国際的な研究者仲間を作りやすいということです。そこでは共同研究の打ち合わせが、会議のコーヒーブレイクといわれる休憩時間に多く行われます。同じ研究を行っている外国の研究者とは日頃から切磋琢磨しながら研究していますが、研究成果の意見交換をするだけではなく、お互いが相手の研究所を訪れて共同研究を行います。コーヒーを飲みながらの雑談から、新しいアイデアが出てくるといったこともまれではありません。

国際連携部会では、本研究所の若手研究者が世界を舞台に活躍できるようにサポートしています。より多くの研究者が活躍することによって、本研究所、さらには日本の国際的評価も高まります。社会では「人は財産なり」とよく言われますが、研究所においても人材の育成が最も大事です。その財産の価値を上げることが、国際連携部会の役割だと考えています。国際連携部会で支援を行った国際会議発表に関してはhttp://www.nifs.ac.jp/crp/kokusai_renkei.htmlに詳細を掲載しています。

(連携研究プロジェクト 国際連携部会部会長)
(高温プラズマ物理研究系 教授)



図4 会議の参加者の集合写真(高温超伝導体の核融合マグネット応用に関する第1回国際ワークショップ)